

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070102722		
法人名	株式会社 リバソン		
事業所名(ユニット名)	グループホームなぎのやど u1		
所在地	和歌山県和歌山市下三毛870-3		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/30/i/ndex.php?acti_on_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=3070102722-002PrEfCd=30&Ver.si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なぎのやどでは、ご利用者様またスタッフを含め家族となり、地域の方々との交流を行いその人らしい普通の暮らしを愛する地域での日常生活をご支援させて頂きます。
また、ご本人様、ご家族様のご希望があり医師の指導のもと可能な限り看取りまでご支援させて頂きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、理念をよく理解し共有している。利用者には、家族の気持ちで日々穏やかに接している。利用者の思いやしたいことを第一に尊重し、自宅に居るようなその人らしい自立した生活の支援に努めている。設立10年目となる当事業所は、地域との交流も盛んで、特に地元小学生の訪問は利用者が心待ちにする楽しい行事の一つである。看取りについては、本人家族との話し合いを繰り返しながら医師・看護師ら関係者との連携を密にして、事業所が対応できる最大のケアに当たっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をわかりやすい所に掲げ、管理者・職員は理念を共有しており、日々の方針として業務に取り組み地域との交流を深めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念は、誰もが目につくリビング正面壁に掲示されている。採用時研修で意識づけを徹底し、毎朝礼において全員で唱和している。管理者や職員全員参加の月例会議でさらに理解を深め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会の清掃作業に参加したり、地元の小学生がプレゼントを持って訪れてくれる等、交流は多い。又小学校の運動会や小倉地区ふれあい演芸会・和歌山高校チューリップ祭りにも招待され参加している。	職員は、地域の清掃作業や草取りに積極的に参加している。また、日々のあいさつや会話の中で地域に溶け込むよう努めている。近隣の農家が野菜や果物を持って立ち寄ってくれることもあり、地域との交流は深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会と事業所が連絡を取り合い、運営推進会議を通して清掃活動や催し物への参加等地域の人々に理解を得て戴くように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催しホームの現状や事故・苦情の件数、内容等報告している。また、防災訓練の実施、地域活動への参加、感染症予防等、その他の課題を含め、委員に意見を求めサービス向上の課題としている。	2か月毎に開催している運営推進会議では、利用者状況や危機管理会議の議事、研修参加報告、事故報告、防災訓練実施報告、行事予定報告などを行っている。家族、医師、自治会長、民生委員などの参加者から、意見や提案をもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修の相談、基準の相談、指導監査課へは4月からの介護報酬改定についてや人員配置について相談している。	市役所・支所へは運営推進会議議事録を届けている。また、認定更新時など出向く際、担当者には事業所の相談にも応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず外に出れるようにしている。また研修等にも参加し、知識を深めている。	日中は玄関を施錠していない。センサーで人の出入りを察知できるが、利用者が外に出ようとしても遮ることはせず、付き添って見守り、ドライブや散歩に誘うこともある。職員は外部研修の受講や、月例会議で具体例を挙げて勉強するなど理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、事業所内でも報告し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、必要のある利用者には活用し支援ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明をし、理解・納得を得られるようにしている。 また、年に一度家族会を開催し、意見交換をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族会を開催し、意見交換をしている。また玄関先に意見箱を設置し、運営に反映させている。	年1回の家族会議は多数の参加があり意見交換の良い機会となっている。意見箱を設置している他、日頃から何でも言ってもらえる雰囲気づくりに配慮している。面会時に家族から意見を聞けることが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を代表者・管理者に伺い話し合い、できる事は反映されている。	管理者は年1回の個人面談のほか、随時、職員の要望を聞くようにしている。行事催行なども職員が提案、企画書を出して検討の上実行している。全職員が委員を務める危機管理会議を毎月開き、意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が管理者・スタッフひとりひとりと個人面談を行い、施設環境や待遇に関する要望を聞き、極力スタッフの要望にこたえるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加をし、学んだ内容をホームに持ち帰り他の職員にも報告している。新人職員には3カ月の研修期間を経てもらい、業務の流れや利用者ごとの心身の状況の把握やケアの方針を身につけてもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一般社団法人和歌山県認知症支援の会に参加し他のホームの見学・会主催の研修等に参加している。参加する職員は良い刺激となり、良いアイデアも生まれサービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際しての希望・要望を聞き入れ反映させるようにしている。 また入居後は不安が大きい為、不安を和らげる為のケアをする等努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こちらも入居に際しての面談にて希望・要望を聞き反映させるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い必要な支援を考え実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の調理・洗濯・そうじ等手伝ってもらったり、職員が分からないことを教えてもらったりと関係は築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば家族の方に連絡をしてもらう等、共に本人の生活を支える関係は築けている。 家族の方が気軽に面会に来られるような環境作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望であれば職員同行で馴染みの場所に行くようにしている。	家族の他、旧知の人が訪れることもある。家族の面会は時間帯を問わず受け入れている。馴染みの理美容院への同行や、遠方の家族へ魚を送りたいと行きつけの魚屋に同行するなど、可能な限り今までの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、ダイニングでの座席を割り振る等孤立せずに利用者同士が関わり、支え合えるような環境作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者の方にもイベント参加の、葉書を出し、参加してもらう関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らしの希望を自分で話してくれる方にはそれに添える様に支援している。思いや希望の把握が困難な方の場合は、日ごろ良く観察し様子や動き等から推し測り対応している。	職員は常に利用者の思いや、したいことを最優先に接している。意思疎通が困難な場合も、日頃の関わりや家族からの聴取、センター方式を活用するなどして本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に対するバググランドを把握して職員がそれを把握して職員がそれを共有し、これまでのサービス利用の経過等に反映するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録用紙に1日の過ごし方を記録し、全員で共有している。特変事項があれば連絡ノートに書き記している。また月1回個人カンファレンスを行い以前と変わったこと等話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を踏まえ、職員間で月1回のカンファレンスを開催し、以前と変わった内容や家族との面談等で出された意見を取り入れ介護計画を作成している。家族には来訪時に説明をして同意を得ている。	職員は毎月のカンファレンスで意見交換し、介護計画を見直している。更に、日々の支援経過で現状を把握して随時見直しをしている。また医師や看護師が定期的に訪れ、意見やアドバイスをもらうことができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録用紙に1日の過ごし方を記録し、全員で共有している。特変事項があれば連絡ノートに書き記している。また月1回個人カンファレンスを行い以前と変わったこと等話し合い現状の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が個人的にお世話になっている遠方の方へのお中元・お歳暮を利用者が直接、遠方の卸売店へ出向き会、郵送するまでの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者ひとり一人の様々な地域資源を把握しており、それを生かして生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の多くが希望するかかりつけ医に月2回往診を受けている。又必要な場合は適切な医療機関で診察を受けられるように紹介してもらっている。	ほとんどの利用者が、定期往診してくれる協力病院をかかりつけ医としている。専門医院の受診の際には職員がほとんど同行している。家族とは電話連絡などで情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している訪問看護師が週1度来られている。また特変事項があれば連絡をし、適切な受診や看護を受けられるように連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師に、入院する利用者の細かな状況説明を行っている。またかかりつけ医による利用者の情報書類を書いてもらい、入院先の医師に渡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項説明書で重度化した場合や終末期の看取りに関する指針について説明を十分しており、重度化した場合はかかりつけ医と家族・職員が十分話し合い、方針を共有している。	看取りについて積極的に取り組んでいる。重篤化した場合、状況の変化に応じてその都度家族の意向を確認している。医師・看護師とも常に連携を取りながらチームで支援している。職員は救命救急の講習を受けるなど対応力アップも図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催している救命講習に参加し、定期的にホームでも研修会を開催し、身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年に2回防災訓練を行っている。また、利用者の非難については地域の役員が参加する運営推進会議で防災訓練を議題とし、地域の人々の協力を得られるように働きかけている。	防災訓練は消防署指導のもと年2回行っており、昼夜を想定し利用者も参加している。自動通報装置、スプリンクラーなどの設置がある。職員による防災委員会を設け日頃から防災意識を高めている。	運営推進会議では地域住民への働きかけが行われているが、訓練への住民参加は得られていない。地域との相互協力は不可欠であり、実践的な訓練への参加を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人個人の人格を尊重し、きちんと考慮した言葉かけや対応している。	呼称はほとんど姓で「〇〇さん」である。個人情報事務所内の施設できる箇所に保管されている。職員は月例会議で人権等について勉強し、年長者への尊敬の念を持って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしてほしいか表せる利用者には希望を聞き、実行している。表す事が困難な利用者に対しては、簡単な質問をしたり表情を見たりして出来るだけ自己決定してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりを優先せず、利用者のペースや希望に沿って外出を支援したり、自分の居室で過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たいものを選んでもらっている。職員と一緒に選び本人に最終決定してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は得意なことや力に応じて食事の準備や後片付け、盛り付けなどを職員と行っている。またホーム敷地内のウッドデッキで食事をしたり、外食を楽しむこともある。	利用者の要望を取り入れ献立を作成している。利用者は買い物や調理、盛り付け、下膳、食器洗いなど一連の作業を職員とともにしている。職員も一緒に食卓を囲み、プランターで育てたトマトやイチゴも食卓に上る。ウッドデッキで自然を満喫しながらの食事や、毎月の「カフェの日」も利用者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食材の内容が偏らないようにバランスを考慮したメニューを作っている。また食事や水分の摂取量も記録しており、その人に適量であるかによって調整している。なお定期的に利用者の体重を量り急な体重の増減に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後液体歯磨きを用意している。歯磨きを出来る利用者に対しては、声掛けを行い歯磨きをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレの声掛けや誘導、介助を行い、排泄パターンを把握し、排泄の失敗や、紙パンツの使用を減らすように支援している。	利用者の羞恥心に配慮している。排泄記録と様子を見守りでさりげなくトイレへ誘導している。また、パターンの把握により失禁の回数が入居当初より減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に野菜の多い献立を提供し適量な水分の摂取をしてもらう用に働きかけている。便秘がちな利用者には腹部マッサージなども施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者は隔日に入浴してもらっている。入浴順も偏らずにまんべんなく入浴出来る様になっている。	毎日でも入浴可能であるが、利用者の希望で隔日入浴がほとんどである。入浴は午後からで、毎回順番を入れ替えたりし、公平性に努めている。柚子湯、しょうぶ湯など季節を楽しむ工夫もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて休みたい利用者には自由に休んでもらえるようにしている。体調の悪い利用者には安心して休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の投薬内容と効果、副作用をファイリングして用法や用量について理解している。また投薬後の利用者の状態の変化を注意深く観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの力に応じて、掃除、料理、洗濯物干しなどの家事、プランターへの花植え、水やりなどしてもらっている。またカラオケやゲーム等のレクリエーションや季節の行事(花見、夏祭り、クリスマス会等)を行い、楽しく暮らしている様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に利用者の希望に応じて近くのスーパーへ買い物に行ったり、近くの公園へ散歩に出かけている。またホームの前に置かれた椅子に座り、自然や外気に触れやすい環境を作っている。	日常的には庭のウッドデッキに出て外気に触れたり、近隣の散歩やスーパーへの買い物などに出かけている。行きつけの理美容院や喫茶店、和歌山城など一人ひとりの要望に合わせた支援を行っている。また、墓参りなどは家族が協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望すれば所持してもらい、好きな時に使う事ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば極力添えるようにしている。また、携帯電話を所持し自由に使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の壁面に色々な行事の写真を貼ったり、地元の小学生から送られた手紙など掲げたりしている。また、共同室から眺められる展望が良く、ホームに居ながらして満開の桜など季節感を感じることができる。	リビングダイニングには自宅のようにソファや食卓、テレビなどを配置し、採光や室温も調整され、居心地が良いように配慮されている。対面式キッチンからは食事準備が垣間見え、広い窓からは季節が感じられる。五感を刺激する工夫が随所に見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも利用者個人個人が気に入ってる場所があり、気の合う利用者同士が自由にコミュニケーションを取られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家具等を本人・家族が相談して持ち込み、壁には塗り絵や小学生が描いた絵等貼ったり、ぬいぐるみや手芸品を置いたりして居心地良く過ごせるように配慮している。	1枚1枚スタッフ手作りの表札がドアにかけられている。居室ごとに壁紙を変えたり、和室風に畳敷きもあり一人ひとりの個室感を出している。ベッドや家具、調度品はすべて持ち込みで、馴染みの品々を思い思いに配置し飾り付けており、その人らしい住まいになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げている。その他トイレやふる場なども分かりやすく表示している。広間や居室内の段差や足が引っ掛かりやすい物は極力取りはらい安全にも配慮している。		